

第1章 歴史的風致の背景

1. 位置

郡上市は、日本そして岐阜県のほぼ中央に位置し、東部は下呂市、南部は美濃市、関市に接しており、地理的には太平洋側と日本海側を隔てる位山分水嶺の南側にあたる。飛騨高地の南斜面に位置している。位山分水嶺は長良川の源流を有する大日ヶ岳から鷲ヶ岳を通り、飛騨の中央を経て乗鞍岳に達している。また、最低海拔地の美並町木尾が110m、最高海拔地の白鳥町銚子ヶ峰が1,810mと、市域における高低差が大きい。

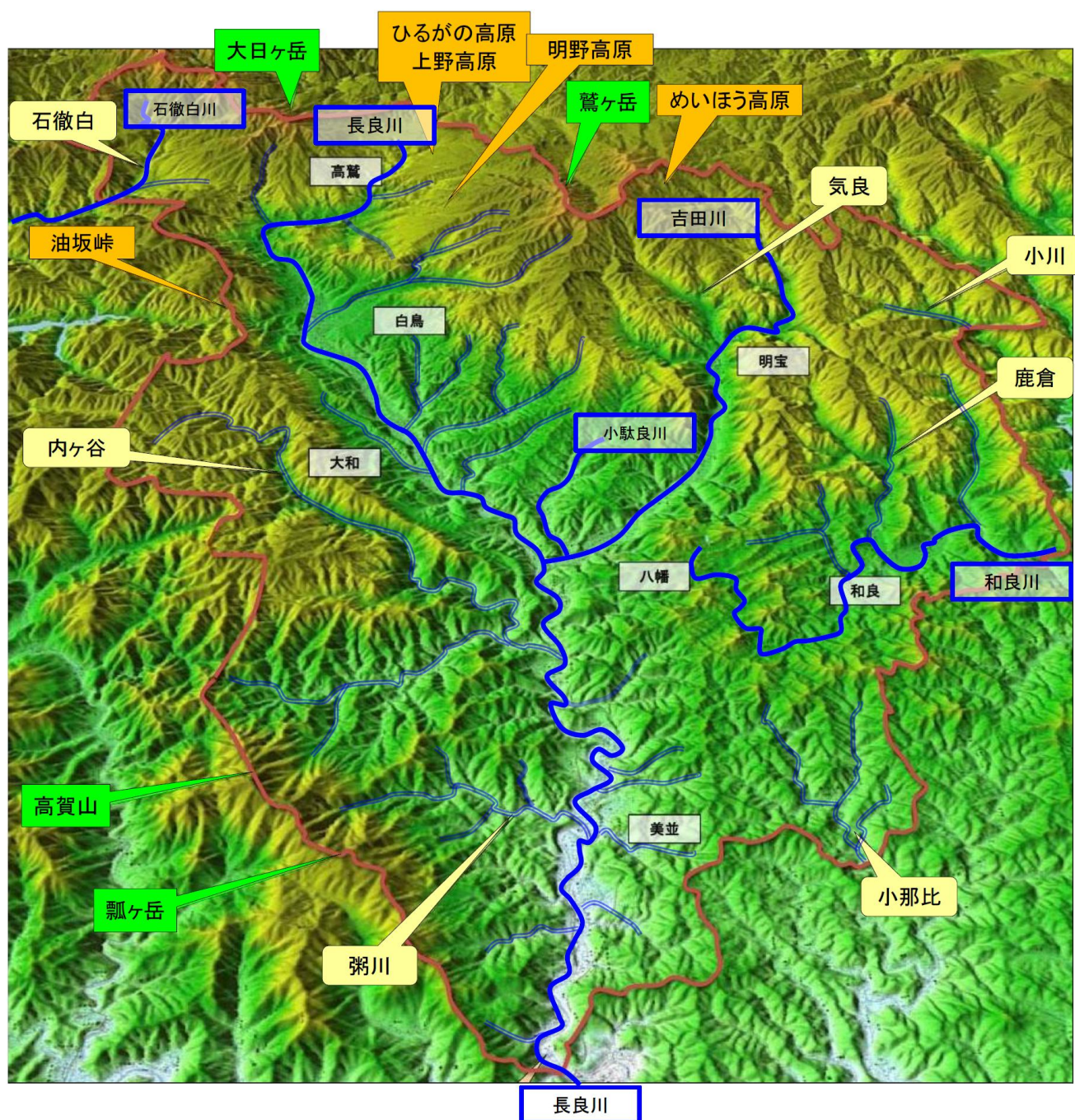


歴史的には令制国の美濃国の北部に位置しており、飛騨、越前、加賀に比較的近い。古くより長良川に沿って岐阜から北上し、八幡町を抜け、これら諸国へ通じる街道として利用されてきた。主要街道としては、岐阜から八幡町へ至る郡上街道、白鳥町から九頭竜川に沿って福井に至る美濃街道、莊川に沿って高岡に至る白川街道などがあげられる。これら諸街道の交差する場所にある八幡町と白鳥町は、山間の集落ながら交通の要衝としての役割を果たしていた。

2. 自然環境

1) 森林・河川

郡上市の地形を広域的にみると、北部には高鷲町にひるがの高原や上野高原、明宝水沢上の^{うわの}一帯にめいほう高原が広がっている。そして、市内を南北に流れる長良川、郡上八幡市街地を東西に横断する吉田川、小駄良川のほか、和良川、石徹白川などの一級河川は合計 24 本である。郡上市の主要河川の長良川は、高鷲町の「かます谷」から始まり、水量を増しながら白鳥町、八幡町、そして岐阜市を経て伊勢湾に至る。



郡上市の標高、河川の位置

白鳥町から八幡町までの河川の流れは比較的緩やかで、河岸平野が発達しているが、八幡町から美濃市は美濃古生層の中心地帯であり、左岸側より和良山脈の西部の山が張出しているため、川は峡谷状になり変化に富んでいる。また、白山が石川県白山市と福井県大野郡白川村にひろがり、御前ヶ峰(標高 2,702m)、大汝峰、剣ヶ峰、やや南に離れて別山が聳える。白山山系は、太平洋側の長良川、日本海側の手取川、九頭竜川、庄川の水源となっている。白山国立公園は、白山の主峰である御前ヶ峰を中心に富山、石川、福井、岐阜の4県にひろがり、およそ東西 20km、南北 40km にわたり、白山国立公園に指定されている。特別天然記念物に指定される石徹白のスギ自生地は特別保護地区に指定されている。

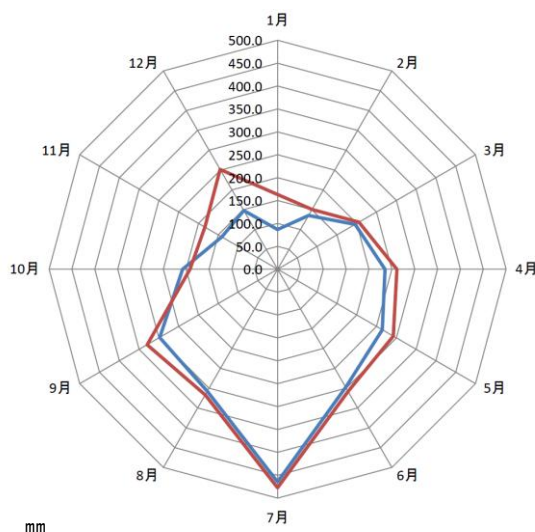
山林面積は 92,612ha と市域の約 90%を占めており、管理の内訳は国有林 3%、県市が管理する公有林 9%、私有林 91%となる。山林面積の 50%が人工林であり、樹種別では針葉樹のスギ 27%、ヒノキ 27%で、ナラ等の広葉樹が 40%となっている。



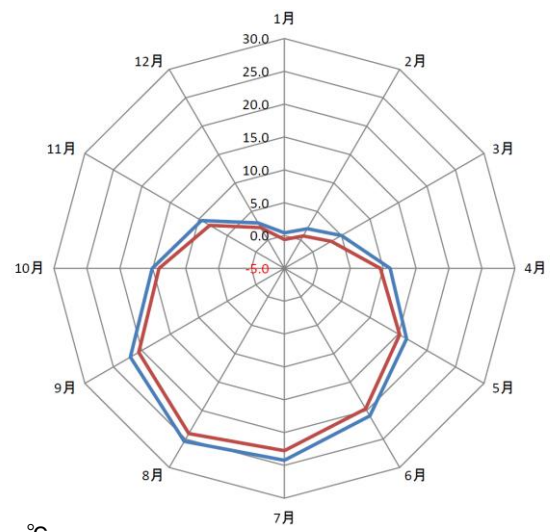
白山国立公園指定状況図

2) 気候・気温

郡上市南部は美濃地方に、北部は飛騨地方に属し、南北約 52km、海拔差で約 1,700m あることから、気候・気温ともに域内でも一様ではないことが多い。夏期は全般的に南東の季節風により温暖で雨の多い太平洋岸気候となる。冬期は南北で大きく分かれ、北部(白鳥町長滝観測所)は北西の季節風のため全国でも有数の豪雪地帯となり日本海岸側気候の特徴が見られる(月別降水量グラフ 12 月・1 月参照)。また、南部(八幡観測所)は晴天が多く太平洋岸気候の特徴が見られる。



月別平均降水量の比較 (10 年間) 八幡観測所・白鳥町長滝観測

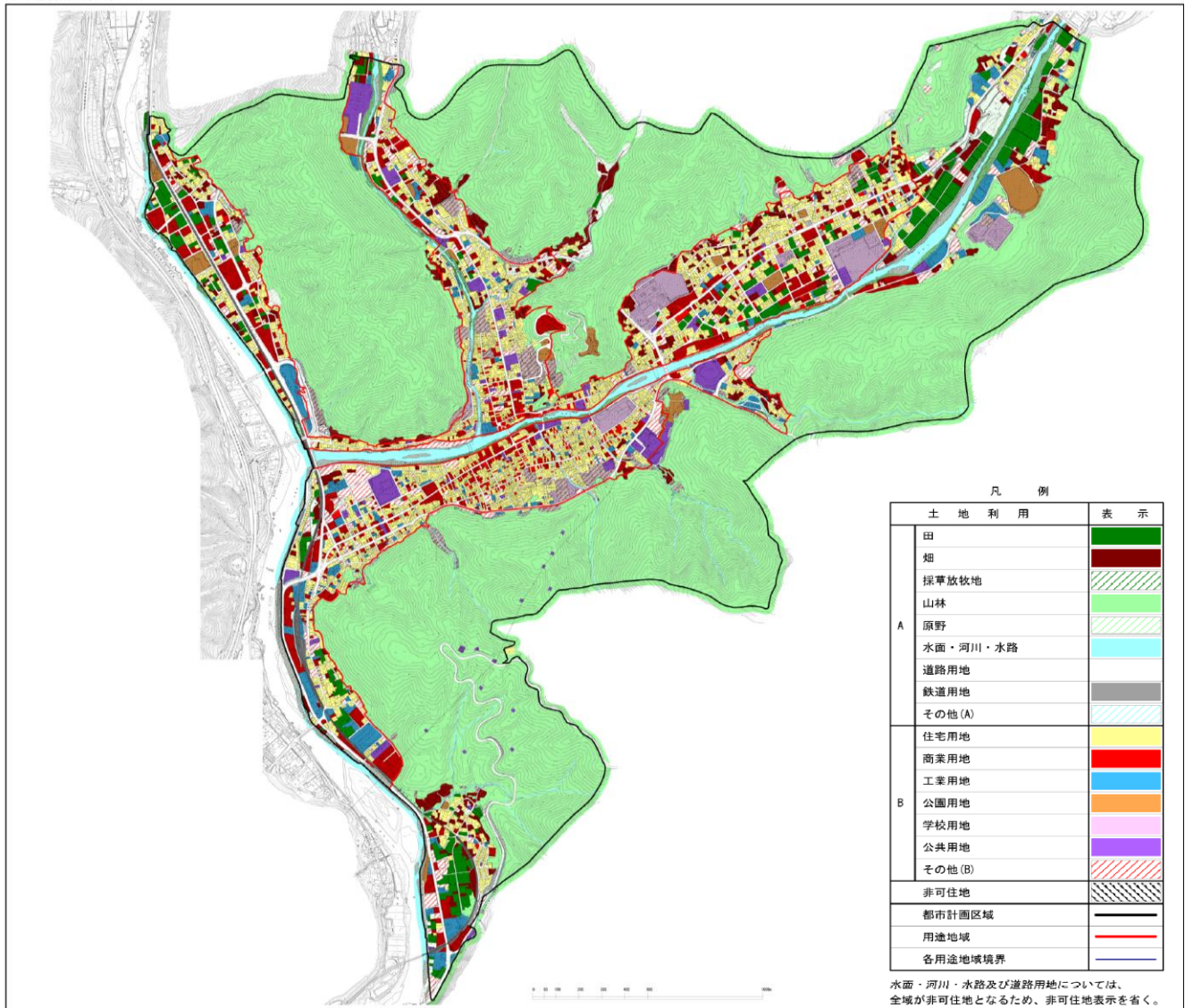


月別平均気温の比較 (10 年間) 八幡観測所・白鳥町長滝観測所

3) 土地利用状況

郡上市の地目別土地面積(岐阜県統計年鑑 平成 21 年)で地目構成をみると、市全体としては森林が 89.3%、農用地 2.9%、宅地は 1.2%となる。

郡上八幡市街地の都市計画区域は、複数の河川に囲まれた狭小な平地に形成されているため、郡上市全体とは異なる地目構成となり、森林 60.8%、農用地、5.4%、宅地 22.2%となる。



H21 都市計画基礎調査 土地利用状況

昭和 63 年と平成 21 年で詳細を比較してみると、道路用地・宅地用地が増加。特に区画整理事業が行われた稲成・五町、口明方で商業用地や住宅用地が増加している。

建築物の用途別個数は工業系が減少し、商業系が増加。建築着工件数は減少傾向にある。平成 13 年度調査では郡上八幡市街地に 170 棟の空き家を確認しており、駐車場も増加傾向にある。

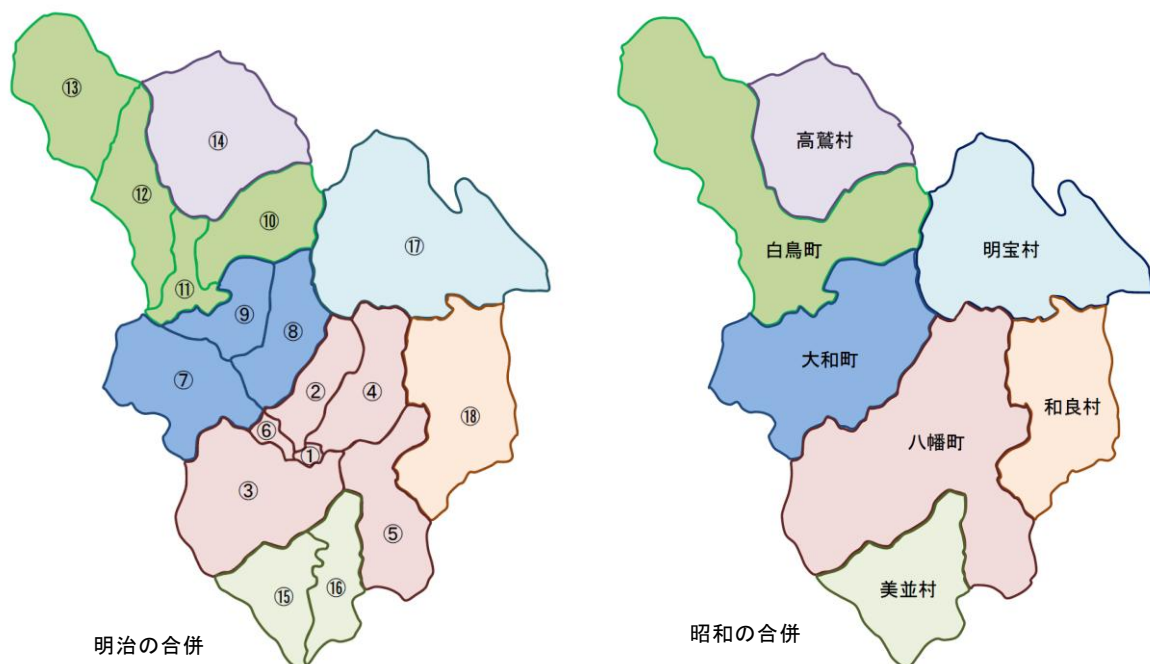
3. 社会環境

1) 郡上市までの変遷

現在の郡上市域にあたる範囲は、明治30年には1町16村であったが、昭和29年の町村合併で2町5村となった。平成16年3月1日に郡上郡7か町村の八幡町、大和町、白鳥町、高鷲村、美並村、明宝村、和良村が合併し、現在の郡上市となった。

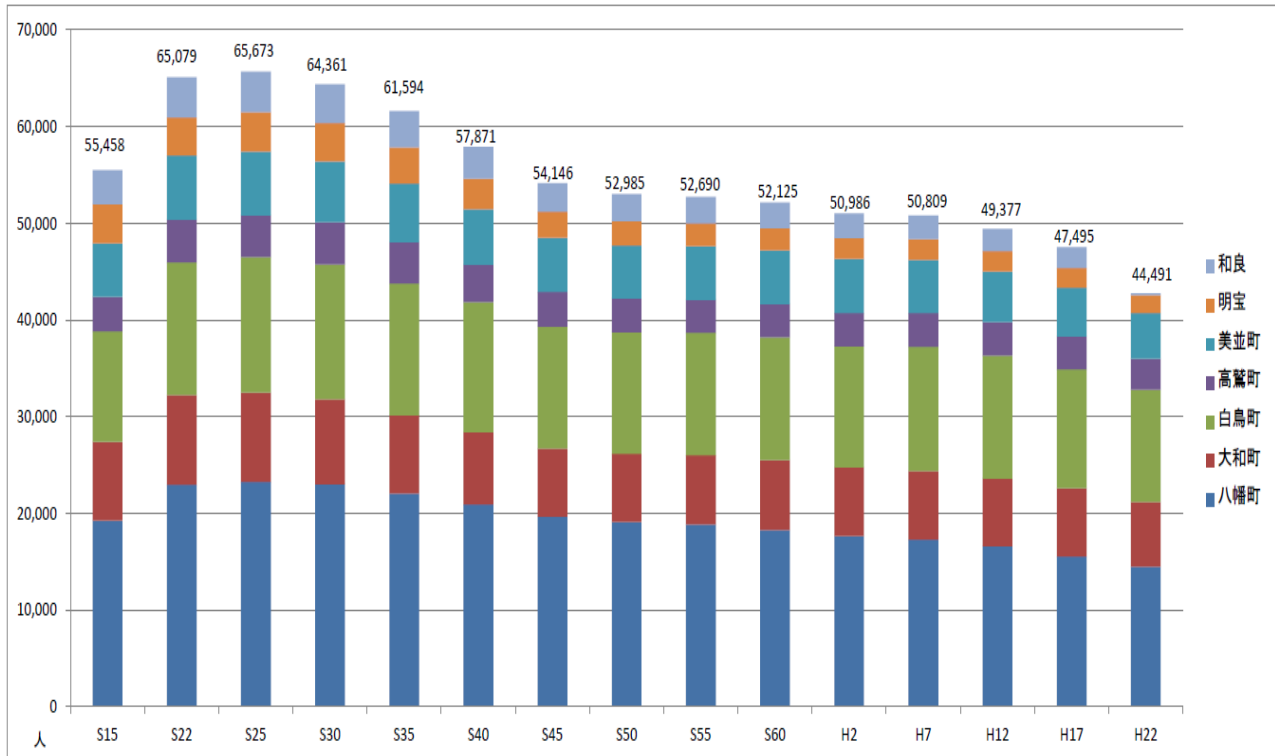
明治の合併	昭和の合併		
八幡町（明治 22 年）①	八幡町（昭和 29 年）		郡上市 （平成 16 年 3 月 1 日）
川合村（明治 30 年）②			
相生村（明治 30 年）③			
口明方村（明治 30 年）④			
西和良村（明治 30 年）⑤			
西川村（明治 30 年）⑦	大和村 （昭和 30 年）	有坂を編入（昭和 32 年）⑥	
山田村（明治 30 年）⑧		大和町（昭和 60 年）	
弥富村（明治 30 年）⑨			
牛道村（明治 30 年）⑩	白鳥町 （昭和 31 年）	福井県大野郡石徹白村を 編入（昭和 33 年）⑬	
上保村（明治 30 年）			
白鳥町（昭和 3 年）⑪			
北濃村（明治 30 年）⑫			
高鷲村（明治 30 年）⑭			
嵩田村（明治 22 年）⑮	美並村（昭和 29 年）		
下川村（明治 30 年）⑯			
奥明方村（明治 30 年）⑰	明方村（昭和 45 年）	明宝村（平成 4 年）	
和良村（明治 27 年）⑱			

郡上市の合併前後の市町村の一覧



2) 人口

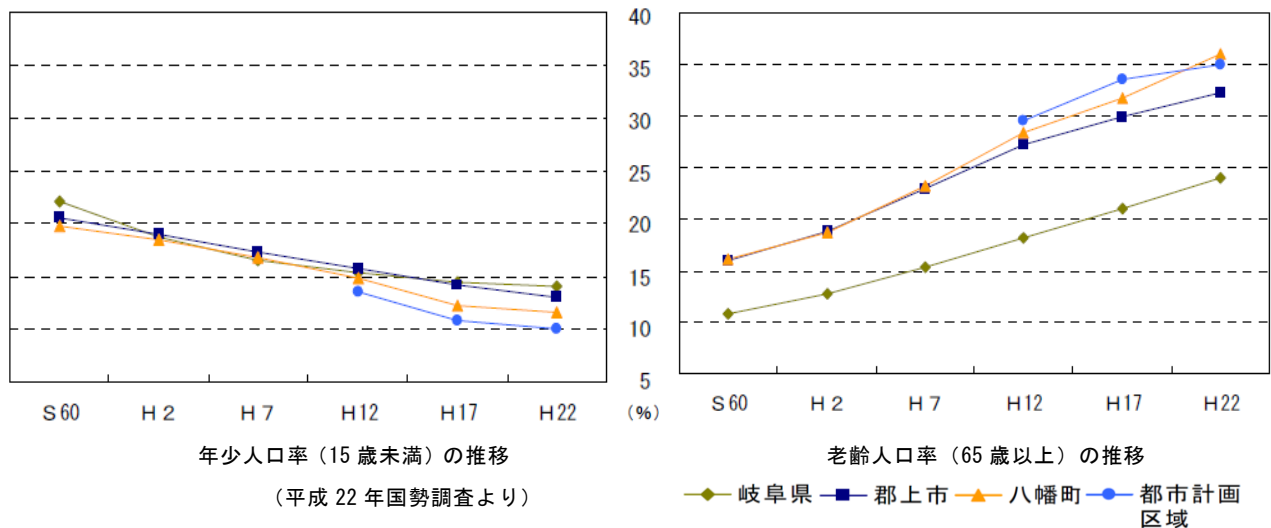
郡上市の総人口は 44,491 人、14,622 世帯(平成 22 年国勢調査)となり、7地域の内訳は別表のとおり減少を続けている。



郡上市の地区別人口の推移 (平成 22 年国勢調査より)

年齢階層別人口では、15歳未満の年少人口率は平成 22 年の郡上市全体で 13.1%、八幡町が 11.6%、都市計画区域が 10%となる。いずれも県平均の 14.1%と比べ少子化傾向が強い結果となり、特に都市計画区域の少子化傾向が顕著となっている。

65 歳以上の高齢人口は平成 22 年で郡上市が 32.3%、八幡町が 36.0%、都市計画区域が 35.0%となり、県平均の 24.0%を大きく上回る。平成 17 年との比較では郡上市で 2.3%、八幡町で 4.3%、都市計画区域で 1.4%の増加を示しており、高齢化の進行を表している。



3) 交通

■ バス

市内のバス運行状況は、路線バス4路線、高速バス2路線、自主運行バス21路線、デマンド型バス4路線を運航している。

■ 鉄道

長良川鉄道が美濃太田駅(美濃加茂市)から北濃駅(白鳥町)間 72.1 kmを運行し、郡上市には38駅のうち28駅があり、美並町、八幡町、大和町、白鳥町を連絡している。

■ 道路

平成20年に東海北陸自動車道が全線開通し、広域交通の利便性が飛躍的に向上し、現在も白鳥インター以北の4車線化事業が進められている。また、平成24年度には郡上市と恵那市を繋ぐ美濃東部農道の整備が完了したほか、東海北陸自動車道とリニア中央新幹線中津川駅(予定)を連絡する濃飛横断自動車道の整備が進められている。

主要国道としては、岐阜市を起点として富山県高岡市に至る国道156号が郡上市を南北に縦断しており、郡上八幡市街地から高山を連絡する国道472号や、岐阜市から郡上八幡市街地を経由し長野県に至る国道256号がある。



4) 郡上市の観光

郡上市は四季を通じて様々な観光資源に恵まれており、夏季の郡上踊・白鳥おどり、長良川でのラフティングや鮎の友釣り、秋季の紅葉、冬季のスキーをはじめ、四季を活かした様々なイベント開催により毎年約 600 万人の観光客が訪れている。

観光地分類別でみると、立ち寄り客の多い道の駅やドライブインでの買い物客が約 191 万人、キャンプ場やスキー場等のレクリエーションが約 166 万人、温泉約 92 万人と上位 3 分類で全体の 7 割以上を占めている。

観光地分類別観光入込客数 (H20～H24)

	H20	H21	H22	H23	H24	H20とH24の比較
合計	6,424,165	6,201,487	5,990,807	5,929,353	6,307,907	98%
自然	299,807	290,271	345,636	347,718	391,509	131%
文化・歴史	377,840	381,113	345,669	330,488	323,629	86%
産業観光	581,899	661,158	656,795	630,488	619,149	106%
スポーツ・レクリエーション	1,819,071	1,622,156	1,557,414	1,502,795	1,665,286	92%
温泉	1,042,461	1,013,906	977,945	933,224	923,923	89%
買物	1,840,687	1,732,383	1,666,748	1,741,640	1,914,928	104%
行・祭事	420,900	411,500	343,600	339,000	315,800	75%
イベント	41,500	89,000	97,000	104,000	153,683	370%

※調査基準について、平成23年までは「岐阜県観光レクリエーション動態調査委員会」、平成24年からは「観光庁観光入込客統計に関する共通基準」に基づき算出。

分類説明 ○自然：鍾乳洞、滝、高原 ○歴史・文化：八幡町内文化施設（八幡城、安養寺宝物殿、慈恩寺庭園 等）
○産業観光：食品サンプル、釣り、ヤナ 等 ○レクリエーション：自然体験施設、スキー場
○温泉：民営、市営温泉施設 ○買物：道の駅、ドライブイン ○行事・催事：郡上踊、白鳥踊
○イベント：長良川夢花火、たかす雪まつり、めいほう音楽祭

5) 現代の産業

郡上市全体の就業者数は、人口同様に減少傾向にあり、平成 22 年国勢調査では、減少が続いていた第一次産業の就業者が増加に転じた一方で、増加を続けていた第三次産業就業者が減少に転じた。産業別大分類の構成比では、第 1 次産業 6.8%、第 2 次産業 34.1%、第 3 次産業 59.2%になり、第 3 次産業の就業者が 5 割以上を占めた。総生産額の産業別構成でもサービス業が 21.9%と最も高く、次いで製造業の割合が 20.8%となった。

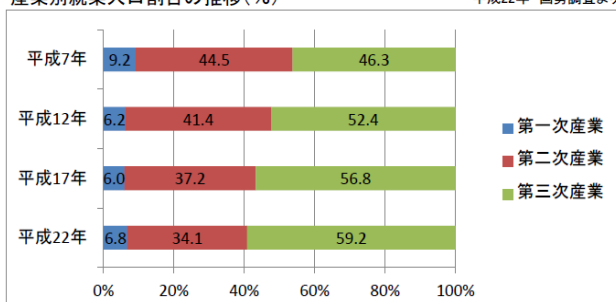
就業者数と産業別構成(人)

平成22年 国勢調査より

年次	第一次産業	第二次産業	第三次産業
平成7年	2,421	11,752	12,209
平成12年	1,495	9,963	12,624
平成17年	1,383	8,603	13,116
平成22年	1,440	7,267	12,621

産業別就業人口割合の推移(%)

平成22年 国勢調査より



郡上市の経済活動別市町村内総生産、市町村民所得、関連指標

		(単位: 百万円, %)	
1. 産業		120,942	85.0
(1) 農林水産業		3,797	2.7
	a 農業	2,194	1.5
	b 林業	1,345	0.9
	c 水産業	257	0.2
(2) 鉱業		800	0.6
(3) 製造業		29,649	20.8
(4) 建設業		10,262	7.2
(5) 電気・ガス・水道業		2,666	1.9
(6) 卸売・小売業		10,029	7.0
(7) 金融・保険業		6,019	4.2
(8) 不動産業		16,126	11.3
(9) 運輸業		10,438	7.3
(10) 情報通信業		-	0.0
(11) サービス業		31,156	21.9
2. 政府サービス生産者		17,462	12.3
(1) 電気・ガス・水道業		1,597	1.1
(2) サービス業		5,638	4.0
(3) 公務		10,227	7.2
3. 対家計民間非営利サービス生産者		3,152	2.2
4. 輸入品に課される税・関税等		782	0.5
5. 市町村内総生産(=1+2+3+4)		142,339	100.0

岐阜県「平成22年度市町村民経済計算結果」より

郡上の鮎 長良川や和良川の鮎は日本一ともいわれ、市の魚に選定されている。郡上の人々は美しい川を守り、鮎を育てる努力を重ねてきた。その結果、「清流めぐり利き鮎会」（高知県友釣連盟）では、河川環境に裏付けされた姿や香、味が評価され、平成14年と21年に「和良川の鮎」（木曾川水系）が、同20年に「郡上鮎」（長良川水系）がグランプリに輝いた。



郡上の鮎

三白産業 スキー、牛乳、大根の3つの白にちなんで三白産業という。冬の多雪、夏の冷涼な気候を活かした高鷲の特色ある産業である。大根は昭和54年天皇賞を受賞し、ひるがの高原大根として大きく生産を伸ばした。ひるがの高原牛乳はおいしい牛乳としてその名を高め、スキーは道路の整備がされたことで全国から多くの冬のスポーツ客を集めている。郡上市内には、白鳥、大和、明宝にもスキー場があり、観光資源となっている。



スキー場

ハムの製造 昭和28年奥明方村（現郡上市明宝）で「明方ハム」として生産が始まった。郡上の特産物にするために、多くの人々が生産や販売の工夫や努力を続けてきた。添加物や保存料を使用しない「手作り」による製法は、次第に全国に知られるようになった。今では、「明宝ハム」「明方ハム」は、郡上のハムとして昔ながらの製法を守り全国に販路を広げている。



ハム生産を始めた頃

食品サンプル 郡上市で生産された多くの食品サンプルが国内や海外に出荷されている。昭和初期、八幡町出身の岩崎瀧三が大阪で食品サンプルの仕事を始めた。その後、材料や製造方法の工夫を重ねた。太平洋戦争後になって大阪や東京にも工場を造り日本の食品サンプル生産が本格的に始まった。近年は、サンプル作りが体験でき、また土産物としても人気がある。



食品サンプル

郡上紬 郡上では農家などが繭（くず繭）から紡いだ糸で紬を織っていた。戦後、宗廣力三は昔からの地の織物である紬の再興に取り組んだ。昭和22年に紬織りの研究を始め、恵利蚕の飼育に取り組み、本格的な紬織りが始まった。同27年「郡上郷土芸術研究所」を那留ヶ野大平農場内に設立し、草木染めの研究も始めた。力三が「用の美」を求めた紬は「郡上紬」として普段着から工芸品まで多様な作品となった。陶芸家河井寛次郎から評価を得たり、また、販路開拓のため、作家白洲正子の銀座の染織工芸の店「こうげい」を訪問するなど、積極的に取り組んだ。

また、郡上紬の普及啓発の為、研究生を募集し、昭和27年から受け入れた。同33年那留ヶ野から八幡町初音に帰り、同35年頃「郡上紬」を正式名称とした。力三は紬としての芸術性や技術の向上に尽力し、昭和57年重要無形文化財「紬織・絁織」技術保持者（人間国宝）に認定された。



郡上紬